

WEEKLY NEWS 2016 週報 通算 2202回 《15回》

第2640地区

和歌山東南 ロータリークラブ

<http://www3.cypress.ne.jp/tonan-rotary.html>



人類に
奉仕する
ロータリー

会長 土屋一博 幹事 中曾真二郎
会報委員長 山本真司

例会日：水曜日 例会場：ミール華月殿
第1・第2：18:30～(夜)
第3・第4・第5：12:30～(昼)
事務局 E-Mail
a-rotary@coral.cypress.ne.jp

本日の例会
10月26日(水)
18:30～

- 「和歌山東南 RC・和歌山中 RC との合同例会」 ラヴィーナ和歌山
- ・開会点鐘 ホストクラブ 土屋会長 ・ローター・ソング 奉仕の理想 ・「和歌山中 RC 例会」「和歌山東南 RC 例会」・出席報告 ・ニコニコ箱(寄付金)報告 ・会長挨拶 ・幹事報告 ・委員会報告
 - ・閉会点鐘 ホストクラブ 土屋会長 ・『懇親会』和歌山東南 RC 司会進行 楠見親睦委員長
 - ・乾杯の挨拶 角谷会員 ・懇親会 ・閉会挨拶 鯨会長エレクト ・手に手つないで

先週例会報告 会場監督 山田さち子

ゲスト・ビジターはございません。

会長挨拶

土屋一博 会長

皆様こんにちは、本日は3点の報告が有ります。
まず、地区大会ゴルフが本日開催されており当会からは、神谷会員が息子様と参加されています。次に、当会の中板会員のお見舞いに中曾幹事と楠見会員とで行って来ました。非常にお元気で 楠見親睦委員長とクリスマス会の事などまるで親睦委員会が開かれたような程でした。
最後に、中谷会員の御主人がお亡くなりになりお通夜とお葬式に参列して来ました。



幹事報告

中曾真二郎 幹事

- ① 2件事務局に届いておりますので、各テーブルに一部置いてあります。お目通しいたごき、御入用の方はお持ち帰りください。 ・「サセン和歌山 22 号」更生保護センター和歌山 ・岡本ガバナーエレクト事務所開設のお知らせ 開所日：10月21日(金)、住所：640-8131 和歌山市弁財天丁1、TEL 4 3 6-7 7 1 1
- ② 地区よりインターアクトクラブ海外研修の案内が届いております。日時・場所：12月25日(日)～30日(金)、タイ国 ロップリー
- ③ ロータリー財団地域セミナー開催のお知らせ・メジャードナー顕彰午餐会のご案内が届いております。当クラブのメジャードナーは釜中会員、神谷会員です。セミナー 日時・場所：11月28日(土)10:00～17:00、ウエスティンコヤキャッスル、午餐会 日時・場所：11月29日(日)11:15～14:00、ウエスティンコヤキャッスル
- ④ IM 合同プロジェクト協賛金 200,000 円を 10月14日にホストクラブの和歌山中 RC に送金いたしました。内訳は協賛金 BOX165,000 円+国際奉仕より 35,000 円です。
- ⑤ 来週 10月26日(水)の例会は和歌山中 RC との合同例会で、時間・場所変更となっております。時間は 18:30～、場所はラヴィーナ和歌山です。皆様、お間違えのないよう よろしくお願ひいたします。26日(水)9:00よりサンリゾート CC で合同親睦ゴルフコンペを開催いたします。本日組み合わせをお配りさせていただきます。ご参加いただきます皆様、よろしくお願ひいたします。



和歌山東南ロータリークラブ

	ニコニコ	米山記念奨学会	ロータリー財団	東南育英会
累計	916,456	257,000	156,000	13,000

出席報告			出席者	出席率
会員総数	44名	10/19	30名	71.43%
出席免除会員	3名	10/5	30名	73.17%

ニコニコ箱

奥村智子 副会長

土屋君・第2回 東南会ゴルフでハンデに恵まれ優勝しました。
山田(さ)君・16日(日)なんば花月に行き、尾花市長さんに吉宗の紋付ハカマの着付けに行ってきました。
山口君・東南会 プービー賞、おつかれでした。
山本(真)君・本日卓話をさせていただきます。見た目と違って決してアブナイ人間ではありません?
津田君・病気お見舞いとしていただきました。青木会員、南会員、赤在会員、お気遣いありがとうございます。
結婚記念日お祝い・坂口君、鯨君、籠田君、寺下君、鯨坂君。



米山記念奨学会

土屋君・山本真司様、本日の卓話楽しみにしています。
保田君・先日、Rのゴルフ会で白浜コンペ大変ご苦労様でした。有難う。



10月結婚記念日お祝い



《第2回東南会ゴルフコンペ》



日時：10月15日(土)
場所：朝日ゴルフクラブ

優勝 土屋一博会員
準優勝 中曾真二郎会員
3位 溝落和作会員



会員卓話「日本刀の魅力」

公益財団 日本美術刀剣保存協会 和歌山支部 理事 山本真司様



会員卓話の依頼があり何でもいいから 30 分話して下さい。という事で、さあ人前で話をさせて頂くことなど何一つない私なんですが、会員さんより私が趣味でやっています日本刀研究について話をしてほしいとリクエストがありましたので、今日は興味のある方も又、無い方もしばらくお付き合いをお願いします。

まず、私が所属しております「公益財団法人 日本美術刀剣保存協会 和歌山支部」の紹介をします。本部の設立は、1948 年 2 月で、今年で 68 年になります。設立趣旨は明治維新にともなう廃刀令以降、海外への流出が懸念され、さらに太平洋戦争終結後、連合国軍 最高司令総司令部は、日本刀没収をしたため、これを恐れた持ち主の中には、破棄してしまう事態がおこり、そのため、日本刀を後世に伝える目的で財団が設立されました。歴代会長には橋本龍太郎内閣総理大臣

や村山弘義東京高等検察庁検事長などが歴任されており、現在会員は、全国海外を合わせて約 4 千人の会員が在籍しています。

私が所属しております和歌山支部も今年で設立丸 50 年を迎え、会員は約 40 数名の会員さんがおります。そこで私も 22 年活動させて頂いています。主たる活動は、「歴史ある日本刀を保存する」ということにありますので、現在国の指定の国宝や重要文化財クラスの刀剣及び刀装具を保存管理しています。これは県博より我々団体にこの管理を委託され研究資料として押し形を取ったり、さび止めの手入を施し、後世に健全な状態で残していく作業をしています。また、定期的に研究会を開いて各会員同士の意見交換会などを行っております。また、役員は研究論文を発表し、会の権威の維持に努めております。過去に私自身もつたない論文ではありますが、平成 8 年に「在銘と無銘」、平成 11 年に「南紀重国について」、平成 14 年に「紀州石堂に関する一考」、平成 18 年に「紀州石堂安廣と大和守安定について」平成 23 年に「紀伊国熊野における人鹿刀工」、今年、平成 28 年 6 月に「紀州の刀装具」を発表しました。

もう一つの活動として、年 4 回登録審査ということをしております。

これは、和歌山県教育委員会と和歌山県警と共同で、今新たに家から刀剣類が出てきたとか、日本刀の刀匠による新作刀などを審査し、登録書を発行しています。まあ車でいうところの車検登録書みたいなもので、これがなければ所持することはできません。今までも 1 回の登録審査で約 20 振程度審査に持ち込まれますが、まあ「これは登録するまでもない、サビ身の刀や無銘の刀ばかりで、時代があり、また作者の銘のあるものは殆どありません。中には即松江の往金行きと言わざるを得ない刀もあります。」それでは、テーマの「日本刀の魅力」に話を戻したいと思います。

日本刀と一言で言っても大きく分類して刀身と刀装具に分かれます。先ず刀身の歴史は、古墳時代から製作され当時は鉄ではなく青銅で造られた剣が起源とされています。この時代は武器と言うより宝物とされ古墳の副葬品で土の中から発掘されるものが多いです。この後に大陸より鍛冶師が移住帰化し、鉄の製作が始まり、実質の日本刀の起源とされています。現在、日本において一番古いとされている古墳時代末期の環頭太刀（かんとうのたち）、飛鳥時代の四天王寺の重宝、丙子淑林剣（へいしょうしょうりんけん）、七星剣が特に有名ですね。これらは反りが無い直刀です。本来の反りが付いた片刃の刀剣は平安時代末から始まります。日本刀の呼び名は寸法によって変わってきます。太刀、打刀、脇差（2 尺未満）、短刀（1 尺未満）などがあり他に同じ製法で造られた長巻、薙刀、剣、槍とあります。

また、刀装具とは刀剣を携帯し使用しやすくするもので拵と通常よんでいます。太刀拵、打刀拵など鐔、柄、鞘に分類され、刀装具には各種金属材料が用いられ、使用者の社会的階級によって違いがあります、これだけでも奥が深く研究者も刀身と刀装具それぞれ高い見識を持った専門家がおるわけです。

今日は、刀装具ではなく、刀身の話をしたいと思います。

それでは、日本刀に秘められた魅力とは、一言で言うと、世界に類を見ないもので機能を追求し、一切の無駄を省いた姿だと思えます。その姿や反りはその制作された歴史の中で、それぞれの必要性に応じて生まれ、その時代の様相を物語っているんですね。刀剣史上、古刀期、新刀期、新々刀期、現代刀の四期にわかれます。古刀は（平安時代より慶長以前まで）、新刀は（慶長元年から安永末期まで）、新々刀（天明元年より幕末明治維新まで）、現代刀は（それ以降現在まで）に時代別に区別されています。また美観の魅力としては、研ぎ澄まされた地金の肌や刀文に美しさに、引き付けられてしまうわけですが、この地金の美しさは、和鉄の鋼（はがね）を何回も折り返し鍛錬し、強靱な地金を作ることによって出来る訳です。

鍛肌は樹木のように板目、柾目、杢目肌といったように表現され、さらに刃紋の中に「働き」という言葉で表される地沸、地景、映りなどの変化があり、このような特色や制作地域（五ヶ伝、備前、山城、大和、美濃、相州）や時代などから、長く研究された方であれば、作者がほぼ間違いなく特定できます。

また、刀は武士の魂などとも言われますが、日本刀は武士にとっては何物にも換え難いものでものものであったわけですね。当時は大変高価な存在であったわけですが、例えば寛文の頃、紀州の刀工に「備中守康廣」という新刀期の刀工があり。現在はさほど高価な評価はないわけですが、ところが昔は武家集の間で「この備中守康廣の差料を腰にしておけば、娘をつかわそう」と言われ、逆に「せめて備中守」と言う言葉、当時渡行したらしいです。

また、古刀の名刀となれば、ほとんどが神社や諸大名家に代々引き継がれていて とても一般の武士には持てないものです。戦国時代に、合戦において功績のあった武将に対し、恩賞として「国一国をあたえようか、それともこの備前長船長光の刀をつかわそうか」と主君の言葉があったといひます。まさに、一振の刀は国一国と同等の価値があったんです。とは言うものの、日本刀には作者の銘が切られているわけですが、その銘が有名な刀工であるほど為銘が多いんです。高名な刀工の刀が切れ味が良い、これを「大業物」と言いますが、江戸時代には、その切れ味を試す役人がおり、皆様も聞いた方もおられると思いますが、山田浅右衛門などは有名です。この人たちが折り紙を発行するようになり、そのランクとして「大業物」「業物」そして「位列として最上作、上作などに格付けされます。

一概によく切れるものが、名刀かと言うものでもないんです。国宝重文に指定されている刀剣が名刀に違いないですが、このような刀剣はそれを制作した鍛冶の作品の中でも最も優れているもので、尚且つ大名家が所蔵し、来歴が良いものに限ります。名刀の前提条件は美術品として出来が良いという事です。したがって、刀は一振一振来歴が違いますから、同じ刀工でも評価が変わってきます。

日本刀に悠久の歴史を感じる方もあったと思います。

日本刀は武器ではありますが、信仰の対象ともなり、権威の象徴ともなってきました。日本の歴史の中で日本刀は千年を超えて大切に保存され、その果たされた役割は大きく、まさに日本の文化であると思います。日本刀に美を感じることは、日本の文化を感じることでないでしょうか。

本日は貴重な時間を頂き、本当にありがとうございました。

「第2640地区 地区大会」2016年10月22日(土)23日(日)
ホテル・アコーラージュシー堺 参加会員：22日(2名) 23日(9名)

